

不登校を予防し、早期に対応する 温かい学校づくりのための10のチェックリスト

☆取組状況をチェックしてみましょう ◎十分できている ○できている △不十分

体制・対応	取組の内容例	チェック
授業改善や人間関係づくりを中心とした 予防体制づくり	① 教師との人間関係づくりを進めている。 例：お話タイム、相談月間等の時間に面接等の実施	
	② Q-U アンケート等を活用し、児童生徒や学級の状態を把握するとともに、学級経営、日々の授業づくりや人間関係づくりに生かしている。 例：人間関係づくりプログラムの計画的な実施 （心の冒険教育、構成的グループエンカウンター、ソーシャルスキルトレーニング等 『高知あったかプログラム』の活用）	
	③ Q-U アンケート等から学校回避感情を有する児童生徒名を学校としてまとめておき、日常観察・面接等のかかわりを進めている。 <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> Q-U で特にチェックしていただきたい質問項目 小学校用（1～3年） 問9「学校にいきたくないことがありますか」 小学校用（4～6年） 問9「あなたはクラスの人にばかにされるなどして、クラスにいたくないと思うことがありますか」 中学校用 問19「学校に行きたくないことがある」 </div>	
欠席・遅刻等に敏感になる早期 対応体制づくり	④ 毎朝の出欠状況が把握され、教職員で情報が共有されている。 例：毎日 職員室黒板に名前を記入	
	⑤ 欠席状況に応じた電話連絡・家庭訪問の支援体制が整備されており、初期の対応が学校で統一されている。 例：欠席3日で家庭訪問（訪問は5分以内、登校刺激しない）等	
	⑥ 累計欠席10日段階で、担当者に報告している。	
	⑦ 毎週の学年会で、心配される子どもや不登校の子どもについて話し合う時間が確保されている。	
学級担任や学年任せにしない 支援体制づくり	⑧ 校内支援委員会（コーディネーション委員会）が組織され、メンバーの役割が明確になっている。	
	⑨ 校内支援委員会が定期的開催されており、心配される児童生徒の情報を共有し、支援の方向性や対応を話し合っている。 例：SC、SSW等の校内支援委員会への参加 チームで支援するケースや関係機関（教育支援センター、心の教育センター、医療機関等）と連携するケースについて、決定している。	
	⑩ 長期化しているケースは、チーム支援会を開き、支援計画表を作成し、対応している。	